

# 新県立博物館ニュース

## 第2号

編集・発行 三重県生活・文化部  
平成21年1月30日

## 新県立博物館基本計画ができました

### ■新県立博物館基本計画とは

「新県立博物館基本計画」(以下「基本計画」)は、平成20年3月に策定した「新県立博物館基本構想」を基にして、新博物館整備をさらに具体化したものです。「基本計画」の策定にあたっては、三重県文化審議会やさまざまな分野の専門家で構成する新県立博物館基本計画検討部会で検討を行いました。また、県民意見交換会やパブリックコメントを通じて、県民のみならずからたくさんのご意見をお聴きしながら平成20年12月にとりまとめました。

### ■「基本計画」の内容は

「基本計画」は、新博物館の「使命と役割」、「テーマ」、「活動計画」、「施設計画」、「運営計画」などの内容で構成されています。新博物館は、三重の自然と歴史・文化に関する調査研究や収集保存など基本的な活動を行いつつ、県民・利用者のみなさんが気軽に訪れ、さまざまな人びとの交流を通じて、三重の自然や歴史・文化について学んだり、主体的に活動したりできる場となります。また、県民・利用者のみなさんとの「協創」やさまざまな団体・機関の方との「連携」によって、博物館が持つ機能を最大限発揮させることとしています。

冊子は、各県民センター、県庁8階新博物館整備プロジェクトで配布しています。また、つぎのURLからもダウンロードできます(<http://www.pref.mie.jp/SHINHAKU/HP/>)。

### ■これからどうなる？

今後は、「基本計画」の内容を基にして、新博物館の建築や展示のための設計を行い、建物の姿や展示内容、事業費の概算などを明らかにします。そのあと、工事を行い、最短で、平成26年の開館をめざします。さらに、シンポジウムやみんなで作る博物館会議(仮称)、子ども会議(仮称)などの開催をはじめ、だれもが楽しめる博物館のためのしくみを県民のみなさんとともに作りあげていきます。



# 新博物館にできる「交流創造エリア」って何？

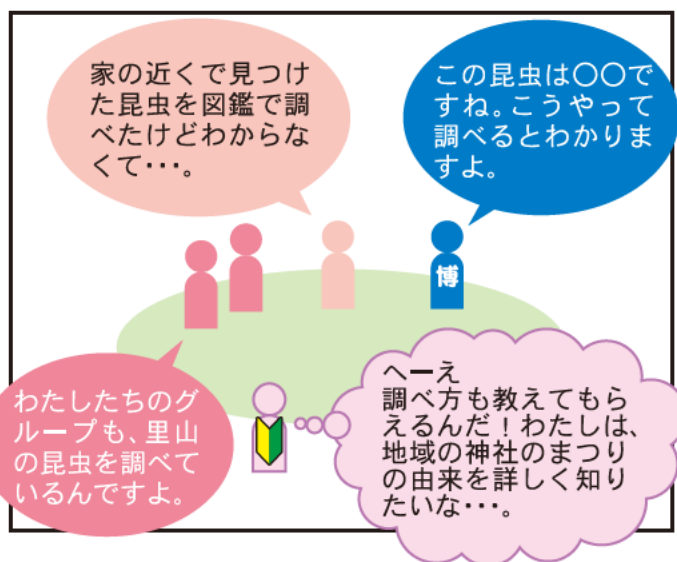
交流創造エリアは、博物館の中で、だれもが気軽に何度でも訪れ、新しい発見や驚きを誘う活気あふれる交流空間です。利用者みなさんが、興味や関心、学習や研究、活動などの目的に応じて、「三重の自然と歴史・文化に関するレファレンス」、「情報の受発信」、「資料の閲覧」、「学習交流プログラム」など、このエリアで提供されるさまざまな機能を活用したり、活動に参画したりすることを通じて、三重についての知的な探求を楽しむことができる場です。

## ○三重の自然と歴史・文化に関するレファレンス

レファレンスとは、調べもののお手伝いや、資料や情報の提示、質問や相談に応じたりするサービスのことです。

新博物館では、三重の自然と歴史・文化や県内外の博物館活動に関することなどについて、専門的な立場からきめ細かなレファレンスを行います。

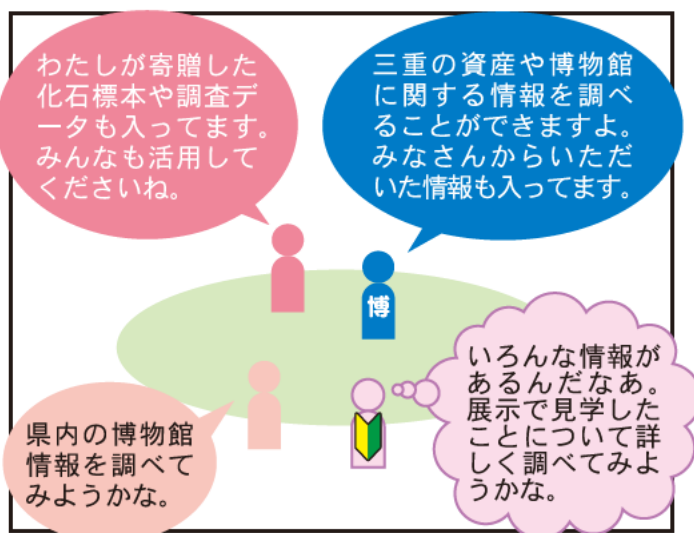
また、県民・利用者みなさんが博物館を活用し、主体的に活動するための入口としてレファレンスを位置づけ、活発な交流の場となるようにします。



## ○三重の資産に関する情報の受発信

三重の資産や博物館活動に関する情報を、館内外で幅広く活用できるよう、インターネットや出版物など、さまざまな手法によって発信します。

また、県民・利用者みなさんに協力をいただきながら、新しい情報を受け入れ、博物館の持つ情報を質・量ともに充実させます。これらの情報の蓄積と活用を循環させ、交流促進のしくみをつくります。



博物館に初めて来た人、博物館の活用に慣れていない人



博物館活動に参加する人、ときどき利用する人



より主体的、能動的に博物館活動に参画する人



自らの学習を究めたい人、自立した担い手として活躍できる人



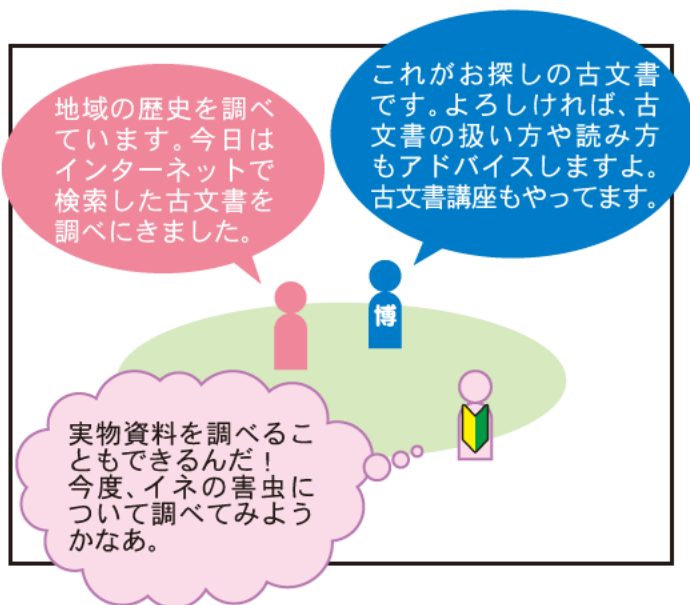
学芸員やアーキビストなどの博物館の専門職員



## ○資料の閲覧

三重の自然と歴史・文化に関する学習や研究で、実物資料の閲覧を必要とする方のために、資料の閲覧ができる場所をつくります。

ここでは、資料の保存に支障のない限り閲覧することができます（※資料は県民共有の財産なので、将来にわたり良好な保存状態で利用できるよう、展示などの機会にご覧いただいたり、必要に応じて、コピーやレプリカを閲覧いただいたりする場合があります）。また、インターネットを活用して、館外から資料の検索や写真・映像資料の閲覧ができるようになります。



## ○学習交流プログラム

三重の自然と歴史・文化の資産について、県民・利用者みなさんの興味・関心に応じた、多彩な学習交流プログラムを展開します。学習交流プログラムには、講座やグループによる主体的な活動（ワークショップ）、野外で行う観察や探訪、調査（フィールドワーク）、次世代（子どもたち）の新たな活動の支援などを考えています。

プログラムの企画と実施は、県民・利用者みなさんの協力や参画を得て、地域の諸団体、他機関などとも連携しながら、幅広い視点で考え、ともに楽しみながら学びあえる交流促進の取組として展開します。

また、学校と連携した、子ども向けの学習プログラムの開発や、県内の人材育成や技術支援の取組も進めていきます。



# 文化芸術懇談会「みんなでつくる新しい博物館」を開催しました

平成20年12月14日(日)に三重県男女共同参画センター フレンテみえで、文化芸術懇談会「みんなでつくる新しい博物館」～未来を拓く子どもたちのために～を開催しました。当日は、親子連れなど約240人の方が参加され、みなさんから好評をいただきました。鈴鹿市の神戸ジュニアリコーダークラブの子どもたちのオープニング演奏ではじまり、野呂昭彦三重県



官(文化人類学者)と染川香澄さん(ハンズ・オン プランニング代表 京都市生涯学習振興財団理事)、長谷川雅美さん(東邦大学理学部教授 元千葉県立中央博物館生態環境研究部首席研究員)、中村幸昭さん(鳥羽水族館名誉館長 三重県博物館協会会長)の4人のパネリストに、二神律子さん(中部学院大学教授・前三重中京大学教授)をコーディネーターとして迎え、「博物館に対する思い、博物館のあるべき姿」や「子どもと博物館の関わりについて」、「誰もが楽しめる博物館とは」などを話題に、それぞれの立場で意見を述べていただきました。

当日、パネリストの方からいただいた、博物館に関する主な思いをいくつか紹介します。

記事のあいさつに続いて、青木保文化庁長官の「社会の中心に博物館空間を」と題した講演がありました。このあと、再び神戸ジュニアリコーダークラブのすばらしい演奏をはさんでパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションは、青木保文化庁長



ただ面白いとか、目を引くというのではなくて、例えばハンズ・オンという触れる展示のように、その動作をしたときに、自分でよく考えて、すっとと腑に落ちる、あるいはぐっと何か引っかかって、そのことが家に帰っても気になり、話題にしたり、もっと知りたくなる。そういうきっかけとなるのが博物館です。(染川さん)



博物館の教育活動が一貫して求めるものは、「戦争は絶対駄目」ということです。2番目は、人間という名の動物は、大自然の中に囲まれて生かされているのだという感謝の気持ちを持つこと。それからもう一つは、命の大切さです。(中村さん)



私は、以前に勤務していた博物館で、「カエルのきもち」という企画展をしました。今、里山などの豊かな体験ができる場所がどんどん減ってきているということを、家庭の中で伝え合う、つまり舞台装置として博物館の展示をしようと思いました。ですから、展示室の出口で、「お父さん、カエルを見にいきたくない」という声をきいたとき、展示をしてよかったなと思いました。(長谷川さん)



子どものためと言うのは簡単ですが、子どもが何を考えているのかということは、親には全然わかりません。親は、子どもは自分の小さいころとまったく同じものだと思っているから、そこに大きな間違いがあるのです。「子どもは完全に異文化を持った他者だ」という視点で子どもを見ながら、子どもがどういうことをやったら楽しいだろうか、あるいは本当に伝えようとする世界に引き込まれるだろうかと考えていかなくてははいけません。(青木長官)

いただいた素晴らしいご意見は、県民のみなさんといっしょに博物館づくりに生かしていきたいと思えます。

第2回の新博物館シンポジウムは平成21年3月21日(土)に津市河芸中央公民館で開催予定です。詳しくは、新博物館整備プロジェクトのホームページ (<http://www.pref.mie.jp/SHINHAKU/HP/>) をご覧ください。



# TOPICS

## 「博物館の仕事って??」

～博物館の仕事と新博物館の特徴を合わせて紹介するコーナー～

博物館は、図書館や文化会館、生涯学習センターなどとともに文化施設の一つですが、他の施設との大きな違いは、「モノ」としての資料を収集して、大切に保存する役割をもつことにあります。もちろん、いくら貴重な資料といっても、ただ大事にしまっておくだけでは意味がありません。きちんとした調査研究と整理によって、それぞれの資料の価値を明らかにして、現在に生きる私たち、そして未来の人びとの共有の財産として、活用できるものにしていかねばなりません。

新博物館では、県民・利用者のみなさんとともに、三重の履歴とありようを明らかにし、それを今に生かし、未来に伝えるために、三重の自然と歴史・文化に関する資料を収集・保存していくこととしています。今回は、このような資料を博物館でどのように整理し保存しているのかご紹介します。

博物館には、資料を安全に守り伝えるために収蔵庫という特別な部屋が設けられています。収蔵庫は、温度・湿度の変化や、害虫やカビなどによって資料が傷んだりしないようしっかりとつくられており、日頃から資料にとって最適なコンディションを維持するために徹底した管理が行われます。害虫の侵入を防ぐために、新しい資料を収蔵する際には、殺虫・殺菌などの保存科学的な措置も施されます。

また、収蔵した資料を展示やデータベースにして広く紹介できるようにするために、資料の分類や保存状態に応じた補修、記録や写真をと



資料の写真撮影風景

るなどの作業も行われます。このような手間のかかる整理作業と厳重な管理がなされるのは、博物館資料が、一般的な商品や物品などとは異なり、代替の効かない資産であり、その活用とともに、できるだけ現状のまま未来に引き継ぐ必要があるためです。

新博物館では、このような収蔵資料を、従来から行われてきた、展示やデータベースによる公開だけでなく、県民・利用者のみなさんがもっと幅広く活用できるようにするために、交流創造エリアに資料閲覧室を設けて、だれもがそれぞれの興味や関心に応じて、学習や研究などで閲覧できるようにする新たな試みを行う予定です。

資料保存の観点から一定のルールや制限も必要となりますが、できるだけ広く活用していただくことを通して、県民・利用者のみなさんとともに、大切な共有財産である三重の宝を守り伝える活動を広げていきたいと考えています。

# おすすめ 博物館

## ② 三重県内の博物館について



新博物館では、県内の博物館や資料館との連携によって、県全域がまるごと博物館となるような活動をめざしています。

さて、県内博物館122館を種別ごとにみると、総合博物館が4館、歴史系・民俗系の博物館が102館、美術館が10館、自然系の博物館が3館、水族館が3館となっています。



総合博物館には、県立博物館をはじめ、四日市市立博物館、神宮徴古館・農業館(伊勢市)があります。

神宮徴古館は神宮の祭りや歴史・文化を、農業館は農林水産業の歴史を紹介している、明治44年(1911年)開館の歴史ある博物館です。四日市市立博物館は四日市の歴史や文化を紹介していますが、プラネタリウムもあります。

歴史系・民俗系博物館には、桑名市博物館や朝日町歴史博物館、尾鷲市中央公民館郷土室など、市町の歴史や文化・暮らしについて紹介している地域の博物館・資料館が多数あります。そのうち、テーマ館としては、県立の齋宮歴史博物館(明和町)をはじめ、伊賀流忍者博物館(伊賀市)、真珠博物館(鳥羽市)、海の博物館(鳥羽市)、「測るもの」にこだわった秤乃館(四日市市)のほか、松尾芭蕉に関する芭蕉翁記念館(伊賀市)や北海道の名付け親である松浦武四郎の記念館(松阪市)、本居宣長記念館(松阪市)、歌人の佐佐木信綱の記念館(鈴鹿市)、大黒屋光太夫記念館(鈴鹿市)、議会政治の父と言われる尾崎罌堂の記念館(伊勢市)、朝日新聞の創始者である村山龍平の記念館(玉城町)など、地域の偉人を紹介している館も多くあります。また、川喜田半泥子の作品や収集品を紹介する石水博物館(津市)などもあります。さらに、伊勢国府などについて紹介する鈴鹿市考古博物館、庄野宿資料館(鈴鹿市)、関町まちなみ

資料館(亀山市)、伊勢河崎商人館(伊勢市)、山田奉行所記念館(伊勢市)、宝塚古墳出土の船形埴輪などを紹介する松阪市文化財センターはにわ館など、地域の史跡について紹介する館も多くあります。

美術館には、県立美術館をはじめ、池田満寿夫の般若心経シリーズを紹介しているパラミタミュージアム(菟野町)、中国の書画を紹介している澄懷堂美術館(四日市市)、神宮美術館(伊勢市)、かめやま美術館(亀山市)、大山玉宝美術館(志摩市)、伊勢現代美術館(南伊勢町)のほか、海外の作品を紹介しているルーブル彫刻美術館(津市)やマコンデ美術館(伊勢市)などがあります。

自然系博物館には、藤原岳の動植物や化石を紹介する藤原岳自然科学館(いなべ市)、おおみや昆虫館(大紀町)、日本サンショウウオセンター(名張市)があります。

そして、海に囲まれた三重県ならではの点も三重の博物館の特色です。ラッコで知られる鳥羽水族館やあっかんべーアザラシで有名な二見シーパラダイス、マンボウの泳ぐ志摩マリンランドがあります。



豊かで多様性に富んだ自然環境やそこに育まれた豊かな歴史を持つ三重県には、さまざまな特色ある博物館・資料館が各地にあります。新博物館では、こうした専門性・地域性の高い県内の各博物館・資料館と、高い総合性をめざす新博物館のそれぞれの特色を生かし、相互の資源や機能を利用しあうことによって、それぞれの活動の幅を広げ、魅力を高めるための連携活動を展開していきます。

※県内博物館を紹介している三重県博物館協会のホームページはこちらです。

<http://suzuka.cool.ne.jp/kenhaku/>

### 【ご意見・お問い合わせ】

三重県生活・文化部 新博物館整備プロジェクト

〒514-8570 津市広明町13三重県庁内

電話：059-224-2175 FAX：059-224-2408

Email：shinhaku@pref.mie.jp

ホームページアドレス：http://www.pref.mie.jp/SHINHAKU/HP/